

市民科学

第19号

通算第31号

発行:NPO法人市民科学研究室 (Citizen Science Initiative Japan)
〒113-0033 東京都文京区本郷 6-18-1
Tel&Fax: 03-3816-0574
e-mail : info@csij.orghttp://www.csij.org/
毎月1回発行
無料(サイトからもダウンロードできます)
編集責任者: 上田昌文

【巻頭言】

「市民科学」が完全無償に移行します

上田昌文 (市民科学研究室代表)

市民科学研究室の機関誌が現在の4ページ版の『市民科学』に形を変えてから、約2年が経過しました。ご存知のように、4ページの紙媒体で、毎月新しく発行する記事や論文の導入部分を示し、全文は会員のみがIDとパスワード(PW)を使ってホームページからダウンロードする、というやり方を用いています。こうした「有料購読契約者だけが全文をウェブサイトで入手できる」という方式は、現在かなり多くのNPOやメディアなどが採用しており、紙媒体の雑誌を郵送・配達する定期購読システムが徐々に廃れつつあると感じさせます。しかし依然として、紙媒体の雑誌・ニュースレターをどこへでも簡単に持ち歩いて読むことのメリットは大きく、そのことは、『市民科学』のホームページ上のアクセス記録を見る限りでの、会員によるIDとPWを使ってのダウンロード率がかなり低いことにも反映しているように思われます。しかし、現在の4ページ版の一つ前の『どう便利』(後に『市民科学』と改称)は40ページ内の手軽な雑誌でしたが、1部200円という低額だったにもかかわらず、定期購読以外の形で売れることはかなりまれでした。ホームページ自体へのアクセス数が1日数千件にも及ぶ日があることを思うと、毎月労力をかけて作る記事論文が限られた人にしか読んでもらえないのは、市民活動として辛いところです。

選択肢はおそらく、(1)今の方式を維持する、(2)再度、紙媒体の月刊もしくは隔月の雑誌を発行する、(3)記事論文は無料で全文をウェブサイトで公開する、の3つです。(1)では、ホームページに掲載した記事論文があまり読まれないままになる可能性が高く、(2)は会員数が少ないと編集・印刷・郵送コストで赤字は確実であり、(3)は実質的に「情報はタダで提供」となるので会員への特典を設けることができない、というデメリットをそれぞれ抱えることとなります。ただ、(3)が(1)(2)と大きく異なるのは、「質の高い情報を出すよう努力するが、その情報自体に対価をいただくのではなく、そうした情報を生み出す活動全体に対して支援をいただく」との考え方に基づいている点です。

先の理事会(9月9日)で検討した結果、この方針を採用することに決め、2009年からおよそ以下のように改変することとなりました。

- 低コストの紙媒体の通信(ニュースレター)を毎月発行する(本体は無料)。これは会員に郵送するとともに、現在の『市民科学』同様、広報チラシがわりに各地の各所に置いてもらうようにする。A4サイズ1枚の裏表で、市民科学研究室内の毎月の活動状況、注目すべき内外の動きをピックアップしての論評、イベントや文献の紹介を

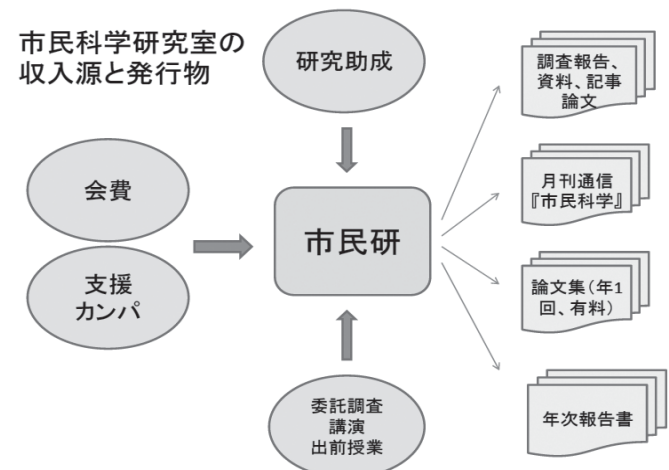
主とする。代表・上田の個人執筆の色合いを強め、市民研のスタッフたちの顔が見える親しみやすいメディアとする。

- 記事論文(書評や翻訳を含む)は毎月平均して数本発行するが、これらはすべてホームページで全文を公開する(無料)。図版や写真の入ったPDFファイルとテキスト中心のブログ形式の「市民研アーカイブス」の両方に掲載する。

- 年1回、記事論文を精選した『市民科学セレクション』、市民研の活動を振り返った『年次報告書』を発行する。会員には両者を無償で郵送、非会員には前者のみ有償とする。

- 会員は、現在レイチェル、ファールブル、ダーウィンの3種あるものを、正会員(総会での議決権あり)と賛助会員で統一する。会費以外に支援カンパ枠を設け、支援を求める。

現在、市民科学研究室は「子ども料理科学教室・実験プログラム」(単独)、「先進技術の社会影響評価(テクノロジーアセスメント)手法の開発と社会への定着」(共同)、「当事者主体によるフリー・モビリティ社会の実現をめざして」(共同)など数件のテーマでの助成研究を含めて、活発な調査研究をすすめています(今号の「塩が料理に...」やカーボンナノチューブに関する翻訳はそれらに関連しています)。その成果を広く伝え、社会を動かす力に変えていくのに、より多くの方々からの支援を必要としています。2009年からの新しい取り組みにおいても、皆さんからのいっそうのお力添えをいただけるよう、がんばりたいと思います。



今日話をさせていただきます、農薬ネットを主宰しています西田と申します。よろしくお願いいたします。

食の安全・安心と言いましたら農薬・食品添加物・食中毒などそういったものすべてが含まれるのですけども、あまりにも取り上げすぎると考えにくくなりますので、今日は農薬で一つ食の安全と食の安心について考えてみようという主旨となっております。

私の自己紹介をさせていただきます。大阪生まれの大阪育ち。39歳です。本業は農薬会社です。約19年間勤めています。研究職を14年間ほどと本社職を5年ほどやっています。またインターネットで11年前からやっているホームページで『農薬ネット』というものをやっています。農薬に関して非常に多くの情報を載せていますし、掲示板で書き込みをしていただきますと専門家からのレスポンスもありますので是非活用してみてください。また農薬に関して情報が簡単に取れるようにトップページにはリンク集を載せていまして、それを活用して調べてみればたいはいのことが分かります。



農薬ってこんなもの

H18年出荷量:27.5万トン
出荷金額:国内3733億円
世界 約3兆円
(農薬要覧2007より)

単価は 3733億÷27.5万トン
≒1400円/キロ

主には殺虫剤・殺菌剤・除草剤がある

有効成分と補助成分で出来ている

日本には 約4700種類の商品
約476種類の有効成分 がある

そのまま、または水で薄めて散布する

【→続きはホームページへ】

「文部科学省政策棚卸し」を傍聴して

和田雄志 (財団法人 未来工学研究所)

8月4日・5日の真夏の2日間、わが国の文教政策および科学技術政策をめぐる事業の仕分け作業が、自民党「無駄遣い撲滅プロジェクトチーム」と文部科学省職員の参加により、熱い攻防が展開された(事務局はシンクタンクの構想日本)。

「事業仕分け」とはあまり耳慣れない言葉だが、カナダ、イギリスの財政再建で大きな威力を発揮した手法。日本では、これまで複数の自治体で何度か実施され、それなりの成果(1割の歳出削減)をあげてきた。

今回は、国レベルの事業仕分けのトップバッターとして、文部科学省が登場。文部科学省の所掌事業は、文教と科学技術の2つの班にわかれ、それぞれの会場では、自民党の若手国会議員数名と自治体職員、大学関係者など総勢10名ほどが評価者としてテーブルにつき、文部科学省の職員(主に課長・課長補佐クラス)がそれぞれ担当の事業を説明、質疑応答を経て、評価者による判定が下されるというシステム(詳細は、文末の参考をご覧ください)。「判定」としては、「不要」「今のまま

なら不要」「民間で実施すべき」「自治体で実施すべき」「国が継続して実施」といった評価にわかる。

【→続きはホームページへ】

■「不要」などと判定された事業 ()内は08年度の予算額。単位億円	
不要	
豊かな体験活動推進	(10)
道徳教育実践研究	(3)
総合型地域スポーツクラブ育成推進	(7)
子どもの体力向上地域連携強化	(1)
子どもの健康を育む総合食育推進	(2)
家庭の教育力向上に向けた総合的施策の推進	(15)
教員研修センター	(14)
科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進	(4)
大学教育の国際化加速プログラム	(20)
質の高い大学教育推進プログラム	(86)

今のままなら不要	
「心のノート」の作成・配布	(4)
全国体力調査	(3)
奨学金貸与事業	(1018)
コミュニティー・スクール推進プラン	(2)
全国学力調査	(62)
グローバルCOEプログラム	(340)
民間に移管すべきだ	
日本科学未来館	(28)
大学入試センター	(4)
凍結すべきだ	
GXロケットプロジェクト	(56)

【朝日新聞】2008年8月6日より

子ども料理科学教室 「塩が料理にとっても大切なわけ」

小林友依 (市民研・食の総合科学研究会)

塩はおいしい料理を作るのに必要な調味料ですが、実は味を決めるための調味料としての働きだけでなく、食材の甘さを引き出したり、醤油や味噌などの発酵状態を作ったり、漬物などの保存性の高い食品を作ったりとさまざまなお仕事で大活躍しています。

家庭で何気なく使っている塩を味比べや実験などの体験を通して、塩の見えない役割に注目できる教室にしました。

まず食材の味を最大限に生かし、1種類の調味料がいかに食材の美味しさを引き出すことができるのかを舌で確かめる味覚実験を行いました。食材は木綿豆腐、胡瓜、薄焼きたまご、トマトです。調味料は塩だけでなく砂糖、酢、ごま油、胡椒の合計5種類を用い、比較してみました。子どもたちは「塩との組み合わせがおいしい」と、言っていました。トマトが好きだからトマトはどの調味料でもおいしいなどといった意見も聞かれました。

【→続きはホームページへ】



【書評】

「美容整形と化粧の社会学」

平山満紀（江戸川大学教員 身体論・社会学）

現代人にとって身体の外見は、アイデンティティに直結する重大事である。痩せたり、筋肉をつけたり、ピアスをする、化粧をする、髪の色を変える、プチ整形をする…さまざまな方法で身体を変えることで、多くの人は自分のアイデンティティを形成したり維持したりしている。

このような現状にも関わらず、現代の身体加工についての社会学的研究は、特に日本ではこれまでほとんどなされておらず、ジャーナリスティックな記述や、事実認識よりも賞賛や批判など価値評価に偏る議論がほとんどだった。その中で、理論と実証の両面から、現代の美容整形と化粧の現象を捉えて分析する本書の意義はたいへん大きい。日本での数量的調査、整形実践者へのインテンスヴィンタビュー、明治以降の化粧品広告6000点余の分析をおこなった上に、付論として韓国、台湾、ドイツの整形実践者へのインタビュー調査による国際比較の分析もある。たいへんな労作だと思う。

【→続きはホームページへ】



『美容整形と化粧の社会学』
谷本奈穂
新曜社2008年

【書評】

「反核シスター—ロザリー・バーテルの軌跡」

ながのとしお（共同作業所非常勤）

この本はロザリー・バーテルという、ナイチンゲールやレイチェル・カーソンと並ぶ、たぐい稀な女性平和運動家の波乱の人生を描いたものだが、放射線の危険性について基礎的な知識を得るのにも役立つし、アメリカを中心とする原子力産業とそれに対する市民運動の歴史としても十分に読める。

ロザリー・バーテルは1929年、カナダとアメリカの二つの市民権を持って生まれた。彼女が16歳のとき、日本に二発の原爆が落とされ戦争が終わったことを知る。町中は喜びに溢れかえっていた。ところが家に帰ると母親が沈んだ様子で夕食の支度をしながらこう言うのを聞く。「あんなことはしゃいけなかったのよ」——これが平和運動家としてのロザリーの原点である。

【→続きはホームページへ】



『反核シスター—ロザリー・バーテルの軌跡』
メアリー＝ルイズ【著】
中川 慶子【訳】
緑風出版2008年

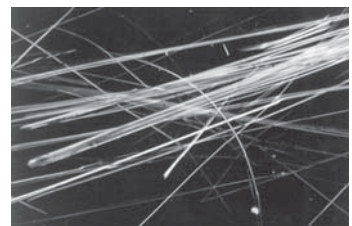
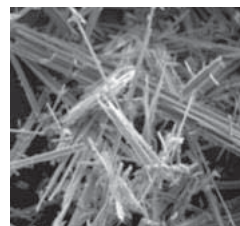
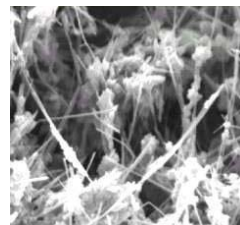
【書評】

Mounting evidence that carbon nanotubes may be the new asbestos 「地球の友」レポート『カーボンナノチューブが新しいアスベストかもしれないという証拠が続々と』

翻訳：吉澤剛＋江間有沙＋上田昌文

カーボンナノチューブは炭素原子からなる薄い中空の円筒であるが、アスベストにとっても良く似ている。2004年、英国の王立協会と世界で二番目に大きな再保険代理店であるスイスReのリスク専門家が、いったん肺にナノチューブが入ればそれはアスベストのように振舞うかもしれないと警告した。続く一連の実験では、齧歯類の肺に注入されたカーボンナノチューブが炎症や肉芽腫の進行、線維症、心臓発作に関わる動脈の「プラーク」、DNA損傷を引き起こすことが示された。二つの別々の研究ではカーボンナノチューブは中皮腫の発症を起こしうること示された。中皮腫というガンはこれまではアスベストの曝露だけが関係すると考えられていた。残念ながら、カーボンナノチューブにアスベストと同様の危険性がある証拠が積み上がってきているにも関わらず、スポーツ用品、自動車や飛行機の部品、強化プラスチックやエレクトロニクスにおける商業的利用も急速に広まっている。

【→続きはホームページへ】



カーボンナノチューブ（上列）とアスベスト繊維（下列）の物理的特性の類似

サイエンスアゴラ2008

11月22日～24日に科学技術コミュニケーションのための大きなイベント「サイエンスアゴラ」が東京お台場で開催されます。来場者は3日間で数千人以上と予想される大きなイベントです。市民科学研究室の上田は実行委員のメンバーを務めています。ぜひいらしてください。詳しくはサイエンスアゴラ2008のホームページをご覧ください。また市民科学研究室は次の2つを実施します。

実験・体験ブース 『子ども料理科学教室』の 実践から～食・環境・科学教育を みすえて

簡単な実験とクイズをとおして“料理科学”の奥深さを体験してもらいます。

ワークショップ 「こんな技術がほしい!～持続可能で 公正な社会のための市民からの イノベーション発案」

(11月24日13:00～14:30)

超高齢化社会、環境の危機、食料や化石燃料の高騰……といった日本の将来像に関わる大局的データと、近年の技術開発やイノベーションの動向データを手がかりに、参加者40名が想像力を存分に働かせて、具体的提案を組み上げていく80分です。ワークショップ作りに関心ある方々には、ぜひ制作段階から関わっていただければと思っています。ご一報いただければ幸いです。

また、上田が審査員の一人として参加する次のコンテスト(日本科学未来館が主催)の出場者を募集しています。

サイエンスプレゼンテーション2008

(11月23日10:00～11:30、14:30～16:00)

詳しくは日本科学未来館のホームページをご覧ください。



地球の未来 日本からの提案

サイエンスアゴラ 2008

science agora
2008

市民研クリスマス会

毎年恒例のクリスマスパーティを開催します。どなたでも参加できます。ご家族、子どもさん連れ、大歓迎です。ぜひおいでください。

2008年12月6日(土) 午後5時半～

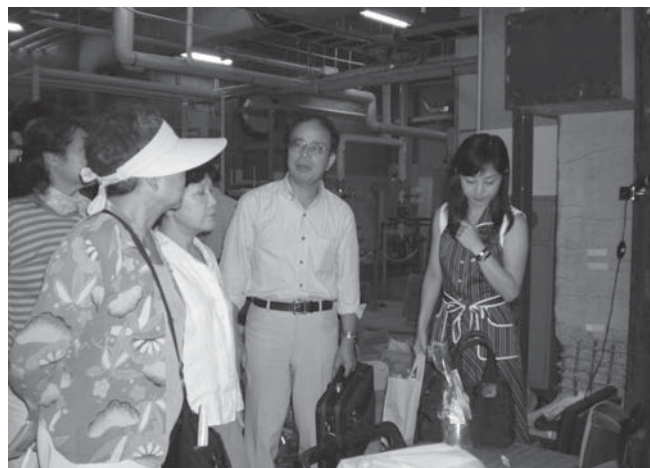
アカデミー湯島5F 実習室

参加費：大人3,000円(小学生以下1,500円)



速報! 第29回市民科学講座 『耐震補強の現状を知る～東大地震研での 見学&セミナー』

「耐震補強の現状を知る～東大地震研での見学&セミナー」の報告が文京区地域公益活動情報サイト「こらびつと文京」に掲載されています。参加者25名、内容は(1)地震大国日本の実態を知る、(2)地震予知研究の現状、(3)災害の軽減、(4)地域の取り組み。東大地震研アウトリーチ推進室の大木聖子助教に講師を務めていただきました。



市民科学研究室とは

市民科学研究室は次の3つのことがらを促進するNPO法人です。

1. 科学技術にかかわる様々な意思決定や政策形成への市民参加
2. 様々な社会問題の解決に向けた専門知の適正な活用
3. “持続可能で生き生きとした生活”を実現するための科学研究や教育の実践

市民の問題認識力を高めるための講座や勉強会を運営し、市民が主体となった調査研究や政策提言や支援事業をすすめています。“リビングサイエンス”(生活を基点にした科学技術)という概念を手がかりに様々な角度から「生活者にとってよりよい科学技術とは」を考えそのアイデアを実現していこうとしています。

あなたも会員になりませんか

どなたでもいつでも入会ができます。次の3つのサービスを提供いたします。

- ①月刊「市民科学」で紹介された記事や論文の全文をホームページからダウンロードできます。
- ②毎月行われる「市民科学講座」の資料をダウンロードできます。
- ③年に2回、「市民科学」で紹介された主要記事・論文をまとめた『市民科学 セレクション』(80ページ)が届けられます。

次の3種類の会員があります。

- ★ダーウィン会員……年会費3,000円
 - ★ファール会員……年会費6,000円
 - ★レイチェル会員……年会費10,000円
- ①+②
①+②+③
①+②+③+講座費免除

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.csij.org/>